季刊 じぱ

Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

河西 康之 氏　特許庁長官

わが社のこだわり

リガク・ホールディングス株式会社
科学技術の進歩を通して
人類社会の発展に貢献する

ZOOM UP

第 25 回 JIPA 知財シンポジウム告知

「鳥人間のテストフライト」photo by 宇野 稜介 氏

Special INTERVIEW No.024

特許庁長官が語る 知財による「稼ぐ力」の向上と 知財行政の未来

河西 康之 氏 *Yasuyuki KASAI*（写真左）
特許庁長官
小林 利彦 *Toshihiko KOBAYASHI*（写真右）
日本知的財産協会 理事長／セイコーエプソン株式会社 執行役員 知的財産本部長

昨年7月に就任された河西特許庁長官に、知財による「稼ぐ力」の向上、特許庁の取組とJIPAへの期待などについて、小林理事長がインタビューを行った。

小林　長官の幅広いご経歴から特許庁長官として感じられている知財行政の役割や責任についてお聞かせください。

河西　日本経済は、今、長らく続いたコストカット型の経済から脱却しつつあります。賃上げにより所得が増え、消費マインドが改善し、事業収益の増加が、更なる賃上げと投資の増加を呼ぶという好循環を実現させたい。日本企業が稼ぎ、再投資する好循環を作るための鍵はイノベーションであり、知財はイノベーションの重要な起点なので、知財行政でその実現に貢献したいと考えています。

小林　長官が日頃強調される「稼ぐ力」について、産業界が知財を起点にこれを高めるためのアドバイスをお願いします。

河西　知財の基本的な役割は、イノベーションの成果に独占権を付与し、利益を上げ、再投資するサイクルを生むことですが、現代では「連携・共創」のツールとしての役割も重要です。また、世界の特許情報は「宝の山」です。AI分析等を活用し、「宝の山」である特許情報を分析し、戦略的に知財を経営に組み込み、事業で稼ぎ、さらに新たな技術を生み出して、多くの特許出願をしてほしいと願っています。

小林　AIの進展による知財環境の変化に特許庁としてどのように制度対応や戦略策定を進めるご予定でしょうか。

河西　AIの進展にどう対応していくかは、非常に重要な課題で、取るべき対応は大きく二つに分けられます。一つは「AIが発明に関わる場合の扱い」。AIは発明者になれないとの国際的な共通理解を踏まえつつ、AIが発明の創作的な部分の多くを担う際の発明者特定や、AI生成情報の先行技術としての取り扱いなど、有識者会議や国際連携を通じて制度対応を進めます。もう一つは、「業務におけるAIの利活用」。効率化を図りつつ、透明性、人間中心、アカウンタビリティ（説明責任）を確保しながら進めます。日米欧の知財庁でAIビジョンを策定し、今後、他の知財庁をリードしていきたいです。

小林　情報発信について今後の取り組みや施策についてお聞かせください。

河西　情報発信は二つの柱で進めます。一つは、私たちが、ユーザーである企業の皆様に知財行政の最先端情報を共有し、拡散していただくことです。もう一つは、次世代を担う若者や子どもたちに、知財の重要性や面白さを伝えることです。大阪・関西万博の特許庁主催の展示には9日間で5万人超の来場があり、知財への潜在的な関心の高さを実感しました。この経験を活かし、新しい企画を考えていきたいです。

小林　万博で開催された知財国際フォーラムで議題にもなったWIPO GREENについて、JIPAに期待することを教えてください。

河西　WIPO GREENはJIPAからご提案頂いた意義のある取り組みです。途上国のニーズに対し援助を行う「ニーズドリブン」の取り組みではなく、ビジネスとしてグリーン関連技術を提供する「シーズドリブン」の取り組みを行うことで、ビジネスとして儲けを得、サステナブルに技術を提供することができると思います。皆様のお知恵を借りながら推進していきます。

小林　クールジャパンに関して、JIPAに期待されることはありますか。

河西　コンテンツ産業を基幹産業にしようという政府の大きな方向性があり、特許庁も、知財戦略の視野を広げ、コンテンツ産業強化、クールジャパン強化に向けて、JIPAと情報や意見を交換していきたいです。

小林　コーポレートガバナンス・コード（以下、CGC）の改訂が検討されていますが、JIPAに期待されることはありますか。

河西　CGCに知財が入ったことは、経営層が、投資家やマーケットに対して、自社の企業価値を説明する際に知財が不可欠な要素になった点でエポックメイキングでした。現在、CGCの改訂が検討されていますが、CGCにおける知財の開示・監督を示すガイドラインの提供等を通じて、CGCにおける知財の重要性を定着させ、改訂後のCGCにも知財が維持されるようにしたいです。官民で努力していきましょう。

小林　引き続き、知的財産・無形資産の位置付けが維持されるようご支援をお願いいたします。最後に、JIPAへの期待を改めてお願いします。

河西　知財制度はユーザーあってのものです。企業が稼ぎ、イノベーションを起こし、利益を上げられるよう、制度と運用を使いやすく効果的なものにすることが我々の使命です。そのため、JIPAの皆様からの建設的なご意見、ご提案を引き続き期待しております。

小林　ご期待に沿えるよう頑張ります。

わが社のこだわり ［リガク・ホールディングス株式会社］

科学技術の進歩を通して人類社会の発展に貢献する

深澤 潤 *Jun FUKASAWA*
リガク･ホールディングス株式会社
グローバルリーガル知的財産部 部長

リガク･ホールディングス株式会社(リガク)は、理科学機器の専門メーカーとして、1951年の創業から70年を超えるグループの歴史を通して、国内のみならず130ヵ国以上において、X線技術を中心とした分析･計測機器の開発、製造、販売の事業を展開しています。長年にわたって培ってきた高度なX線要素技術力と強固な顧客基盤･ロイヤルティを強みに、多様化する市場ニーズに応えながら持続的な成長を実現し、主力製品であるX線回折装置では国内市場で圧倒的No.1シェア、グローバル市場でもトップクラスのシェアを獲得しています。2024年10月には、東京証券取引所プライム市場に上場し、これを転換点として、さらに事業領域を広げた新たな成長ステージへの飛躍に挑戦してまいります。

リガクの強みと成長戦略

リガクの最大の強みは、70年以上にわたり培ってきたX線分析技術の総合力と、独自の要素技術を内製化している点です。X線源、光学素子、検出器、解析ソフトウェアを自社開発し、精度と信頼性において世界的な評価を得ています。また、大学や研究機関から半導体･電池･医薬･環境など多様な産業分野まで、幅広い顧客基盤を有し、高い顧客ロイヤルティを築いていることも競争優位性の重要な要因となっています。

成長戦略としては、「Lab to Fab（研究から生産へ）」を軸に、研究段階（Laboratory）から生産現場（Fabrication）までを包括的に支援するソリューション型ビジネスへの転換を図ります。大学や研究機関で培った高精度X線分析技術を、半導体、ライフサイエンス、蓄電池材料などの成長分野に応用し、プロセス管理や品質保証の高度化を実現しています。さらに、AI･デジタル技術の活用による製品開発力と顧客支援力の強化、研究開発･設備･人材への積極投資を通じて、「分析･計測ソリューション企業」への進化と持続的成長を目指しています。

リガクの知的財産への取り組み

リガク最大の強みである独自技術を支えるのが知的財産（権）となります。特に、R&D責任者を委員長とし、事業部･研究所の代表で構成する知的財産委員会を知的財産の最高決定機関として設置し、各分野の専門知識を結集して「Lab to Fab」や「顧客課題」を意識した発明へのブラッシュアップとその戦略的活用や、要素技術の社内活用などを審議し、事業･研究･知財三位一体の戦略的知財活動を推進しています。

出願戦略では、知財ミックスによる多面的な製品保護を実施しており、具体的には「技術発明の保護最大化」「デザイン･ブランドの構築」「ビジネスモデルへの知財活用」を組み合わせ、シェア拡大とブランド力向上によるグローバル競争力の強化を図っています。さらに、重要な技術や製品については、特許網の構築に注力しています。また、これらを実現するために、知財リテラシーの向上と、発明報奨･表彰制度の抜本的な改定を行い、発明提案の件数増加と、若手･中堅社員の積極的な知財活動への参加を促しています。こうした取り組みが評価され、令和7年度知財功労賞において、経済産業大臣表彰 知財活用企業（特許）を受賞しました。

主力製品:全自動多目的X線回折装置SmartLab®

リガク多目的分析機器事業の成長の軌跡

JIPAへの関わりと期待

JIPAでは、研修や部会を通じて、企業視点で有益な情報をタイムリーに収集･活用しています。また、同業だけでなく、自社単独では得難い異業種とのネットワーク形成にも大いに役立てています。今後も、情報収集とネットワーク構築の場として、活動の更なる充実に期待しております。

JIPA通信

第25回 JIPA 知財シンポジウム

TAKE IP INTO ACTION

知財を「未来の経営力」へ

2026 1.29 Thursday 10:00▼17:35 開場 9:15

東京国際フォーラム ホールC

（開場直後は混雑が予想されますのでご注意下さい）

事前登録制／参加費無料　本シンポジウムには事前登録が必要です。

■申込開始
2025年12月1日（月）　定員1,500名

下記URLまたはQRコードよりお申し込み下さい。
注）定員になり次第締切らせていただきます。

https://www.jipa.or.jp/form/25sympo.html
（後日一部オンデマンド配信あり）

●今回のシンポジウムは、後日動画配信します。
●但し、パネルディスカッションの後半部分は配信せずに、リアルのみで本音のトークを繰り広げていただきますので、是非会場にお越しください。

プログラム

※ 講演者・タイトル・講演時間は変更となる場合がありますので、予めご了承下さい

10:00-10:05	開会挨拶　JIPA 押味 至一 会長
10:05-10:20	来賓挨拶　特許庁 河西 康之 長官
10:20-10:35	来賓挨拶　内閣府知的財産戦略推進事務局 中原 裕彦 事務局長
10:35-11:15	来賓講演　世界知的所有権機関（WIPO） ダレン・タン 事務局長 コーディネータ　JIPA 杉村 多恵 副理事長
11:15-11:25	休憩
11:25-12:25	JIPA 専門委員会 委員長座談会 「専門委員会の運営視点でみた知財の経営貢献 ～悩みと未来に向けた姿～」 コーディネータ：JIPA 井本 史生 常務理事 パネリスト：二階堂 宏央 氏（サントリーホールディングス） 大窪 陽造 氏（コニカミノルタ）、谷口 貴啓 氏（村田製作所） 小柳 邦生 氏（中外製薬）、竹森 久美子 氏（ユキグニファクトリー）
12:25-13:45	休憩（ポスターセッション ホール B5）
13:45-15:45	パネルディスカッション 「知財が拓く未来の経営力 ～知財部門が経営の『戦略的パートナー』へと飛躍する道～」 コーディネータ：JIPA 和泉 恭子 副理事長 パネリスト：（会社名の五十音順） 森平 英也 氏（古河電気工業 代表取締役社長） 畑田 康二郎 氏（将来宇宙輸送システム 代表取締役社長 兼 最高経営責任者） 津田 裕子 氏（ソニー知的財産サービス 代表取締役社長） 佐久間 直子 氏（富士フイルム 執行役員 知的財産本部長 兼 知財法務部長）
15:45-16:00	休憩
16:00-17:30	特別講演 岡田 武史 氏 （今治．夢スポーツ 代表取締役会長、元サッカー日本代表監督） 「今治からの挑戦 ～地方の新しいコミュニティ～」
17:30-17:35	閉会挨拶　JIPA 小林 利彦 理事長
18:00-19:30	懇談会（会費:8,000円）　ホールB5

会　場

■主催／日本知的財産協会　■後援／日本経済団体連合会　日本経済新聞社　産業経済新聞社　日本商工会議所　工業所有権情報・研修館　発明推進協会　日本弁理士会　東京商工会議所

季刊じぱ Vol.36
WINTER 2026
2026年1月15日発行

編集人：　一般社団法人 日本知的財産協会　会誌広報委員会
発行人：　一般社団法人 日本知的財産協会内　上野 剛史
https://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html
印刷&DTP：　NPC 日本印刷株式会社